航空ファン

THE KOKU-FAN — 創刊20周年記念

ワイドカラー

WIDE COLOUR

川崎2式複戦

屠龍



特集

ダレス空港の"トランスポ72"展示機

米ソの"ライバル戦闘機"を比較する

15級モーターグライダー"ハミング"

'72 AUGUST 8

$ 2.30

本誌特写

パタクセントリバー
海軍テストセンター





パタクセントリバー基地には、海軍のテストパイロットを養成するテストパイロット・スクールがある。このページと次ページはその使用機で、上はTA-4スカイホーク、下はT-38Aタロン





上：新しいテストパイロット・スクールのA-4Eスカイホーク　下：T-38Aの尾部で、垂直尾翼に[illegible]は同スクールのエンブレムである







上はリタクトシトリバーの旗を掲げる海軍航空開発中隊（VXN-8）のRP-3D。機首にロードランナーを描いている。下はテスト「イロハ・スクール」を除籍ら…ているOV-1モホーク。右ページ上はA.M.「F」の適性テスト中のF-4J。着陸地帯の後端にはCVA-65の甲板のかたちが描かれており、エンタープライズ・ジュニアと呼ばれている。右ページ下は背部のカマ…レーダーをはずしたEP-3A




3783
NAVY


149673


可変翼の戦闘爆撃機F 111



上ネレムーア 軍基地のFB　　第340爆撃隊機　下ナイキ　ル アノ　ーヘイフィートのF　　E　第79戦術戦闘飛行隊機





マ　コイア軍基地で撮影　第　空軍のFB



このページと次ページは、12ページと同じくテキサス州フォートワースのカースウェル空軍基地で撮影したF-111 第340爆撃大隊の所属機であ[illegible]の写真で、同機の特徴であるオール・フライング・テイル[illegible]形状がよ[illegible]





第340爆撃大隊（340th [illegible] (Mohawk)）は[illegible]の訓練部隊で，今年中にニューヨーク州プラッツバーグ空軍基地とニューハンプシャー州のピース空軍基地の二つの連隊に[illegible]されることになっている。写真では主翼の前縁スラットと後縁のフラップを下している





ダッソー　ミラージュ



上　ー　スマ軍ミラージュIIIB複座練習機　無塗装機　下　オーストラリア空軍のミラージュIIIO戦闘爆撃機　II フランス空軍）をオーストラリアでライセンス生産したもので　装備が　相違があり　スペリー　ジャイロ　プラットフォーム　PHI 5C 航法装置も付加されている　オーストラリア空軍は本機を多数保有しており　機体はすべて 銀塗装（ t N H Ty pak）





[illegible]
オーストラリア空軍の ミラージュ [illegible]





上　フランス空軍のミラージュIIIR偵察機　塗装は上面図メディアムグリーン/ブルーグレイの迷彩。下面はオブホワイトである（Photo by Mike Jones）
下　オーストラリア空軍のミラージュIIIO（Photo by courtesy of McDonnell）




サァ 編隊を組もう!!
レベル1/72スケール
ブルーエンジェルス-F-4J ファントム
★1/72スケール
★¥1 200
新発売
双発機シリーズ
空技廠 陸上爆撃機 銀河 11/16型
★デカール4種入り ★1/72スケール ★¥600
レベル 1/144スケール
1/144 SCALE MINI SERIES
第1弾・日本機12機種
グンゼ産業瀬物営部
東京都千代田区神田錦町3-17

リパブリック P 47D サンダーボルト



第8空軍第78戦闘大隊第82戦闘中隊機　塗装は上側面オリーブドラブ　下面ニュートラルグレイで　胴体下面と主翼下面にインベイジョン　ストライプスが描かれており　第2次大戦当時そのままの状態である（前ページとも）　マーチ空軍基地で撮影





① F4U-4 OF U.S.NAVY RESERVE
F4U-1D PROBABLY ASSIGNED TO CV-18 WASP
FG-1D OF 2ND MARINE AIR WING STATIONED AT OKINAWA

① F4U-4 アメリカ海軍の[illegible]
[illegible]









チャンスボート F4U-1～4 コルセア

CHANCE VOUGHT F4U-1～4 CORSAIR

[illegible]は[illegible]朝鮮動乱まで 約10年間[illegible]わたって活躍[illegible]され 大戦中でもっとも活躍[illegible]お海軍戦闘機の このコルセアであると[illegible]して1940年5月29日[illegible]原型機が初飛行[illegible]1943[illegible]ガダルカナルからブーゲンビル[illegible]出撃以来[illegible]常に活躍し[illegible]

コルセアは アメリカ海軍 海兵隊のほかニュージーランド空軍 イギリス海軍などでも使用され 陸上戦闘機 艦上戦闘爆撃機などの種々の改良型を生み出し 戦後版コルセア フランス[illegible]の機体である 4U-7[illegible]至るまで アメリカ海軍機史上最大の合計12,571機も生産された

キット紹介

よなしみのレベル 32シリーズ F4U-1A [illegible]キット[illegible] コルセアのもっともよく実機のイメージをよく再現している 意匠[illegible]の[illegible]てあも 重大な入念[illegible]として仕上[illegible]て 各部のモールドもシャープで細部まで[illegible]よってコクピットも[illegible]

塗装について

図1と2 戦後のマークをつけたF4U-4（3枚ペラの機体）で 機体の全面ミッドナイトブルー（RC5と16）の塗装 スピナと胴体の帯が黄色で 文字は全部ホワイト（RC1） 左主翼の下面には白でU.S.NAVYと72の文字がある アンテナは2本[illegible]っている

図3 CV-18ワスプの所属機で機体の全面ネービーブルー（RC14） Xと156は白 主翼の国籍マークは左上面 右翼下面 ある標準タイプ 主脚[illegible]くる白で156のナンバーが記入されている

図4 グッドイヤー製のFG-1Dで沖縄方面で海兵隊が使用した機体 機体の全面ミッドナイトブルーまたはネービーブルーで カウリングと方向舵が白と赤チェッカーという派手な機体 主翼の国籍マークは図3と同じ標準タイプで主脚カバーには白で611のナンバーが記入されている

（K.H[illegible]）

The American Naval fighter Corsair was in operational use for some 10 years from WWII through the Korean war. It made its debote on May 29 1940. Since it made its first sortie in February 1943 from Guadalcanal to Bougainville, this naval fighter was always in the front line. During WWII the Corsair was used by the U.S. Marines, New Zealand Air Force and British Navy as well as the U.S. Navy. Various remodeled Corsairs were also produced including an Army fighter, Naval fighter bomber and F4U-7, the model produced for France. The total number of Corsairs built reached 12,571.

KIT

The F4U-1A kit is on sale in Revell's 1/32 series. The Corsair has the established reputation as an excellent kit representing the image of the real plane.
Its intricate finish with exquisite moldings and cockpit is especially noticeable.

PAINTING

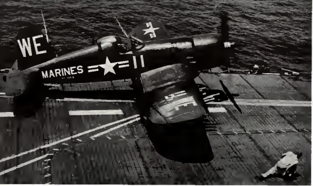
Figs 1 & 2. This is the F4U-4 with postwar markings. It is painted in Revell Color (RC) 5 and 16, midnight blue. The spinner and band on the fuselage are yellow, while letters are all RC 1 white. On the lower surface of the left wing are written in white "U.S. NAVY" and "72". It has two antennas.

Fig 3. This belonged to CV-18 WASP. The plane is RC 14 navy blue. Letters of "X" and "156" are white. Nationality marks are on the upper surface of the left wing and the lower surface of the right wing. You can see small letters "156" in white on the gear cover.

Fig 4. This is the FG-1D made by Goodyear and used by the Marines in the Okinawan front. The plane is painted in midnight blue or navy blue. The cowling and the rudder are gaily painted in a checker pattern of white and red. The nationality marks on the wings are similar to those of Fig 3. On the gear cover are written the letters "611" in white. (K. Hashimoto)

F4U-1データ（[illegible]）
全幅（span）12.48m 全長（[illegible]）10.27[illegible] 全高（height）4.5m 全備重量（[illegible]）5,685[illegible] 発動機（engine）P&W R-2800-8（2,000HP） 最大速度（max [illegible]）618k[illegible] 実用上昇限度（S[illegible]）11,200m 武装（armament）20mm×4 乗員（crew）1名

コルセアの塗装に必要なレベルカラー
①ホワイト　⑤レッド
④イエロー　⑤ブルー
⑥グレー　⑭ネービーブルー
⑮黒・つや消し　⑯[illegible]



チャンスボートF4U-4コルセア戦闘機　朝鮮戦争に参戦した第214海兵戦闘中隊（VMF-214ブラック・シープ）の機体が空母から発進するところ。塗装は全面グロスシーブルー。国籍マークは白い星とそでのみを描いている。胴体に"MARINES"を白で大きく描き、垂直尾翼いっぱいに"WE"の部隊記号もやはり白。右主翼上面にもこの"WE"をつけているのに注意

ボート F4U-4 コルセア

アメリカに現存する飛行可能なコルセアの1機で、エア・レースなどに出場している機体。垂直尾翼にレースの出場ナンバーをつけている。



REPUBLIC *P-47D THUNDERBOLT*

1 2 P 47D FLOWN BY MAJOR MICHAEL JACKSON OF 56TH F GR 8TH A F
3 THUNDERBOLT MK II FLOWN BY SQDR LDR I B WALES OF No 60 SQDN RAF
4 P 47D OF 384TH F SQDN 367TH F GR 9TH A F

1 2 P 47 第8空軍第56戦闘大隊 マイケル ジャクソン少佐の乗機
3 サンダーボルトMk II イギリス空軍第60中隊のI B ウェルズ 少佐の乗機
4 P 47 第9空軍第367戦闘大隊第384戦闘中隊の所属機









リパブリックP-47Dサンダーボルト

REPUBLIC P-47D THUNDERBOLT

第2次大戦の後半、主としてヨーロッパ戦線で活躍した、重武装、大馬力の巨人戦闘機で、原型機XP-47Bは1941年5月、初飛行。1942年11月からP-47Bが実戦に参加、C、D、G、M、Nなどの各型が実戦使用されたほか多くの試作型もつくられた。

実戦では排気タービン過給器によって高々度戦闘および対地攻撃に猛威をふるい、数多くのエースを生み出している。

キット紹介

飛燕などと同じレベルの1/32シリーズでP-47Dのキットが発売中で、さすがサンダーボルトの巨人機ぶりが発揮した実機どおりで、精巧なエンジン、操縦席、機体各部にエンジンを内蔵、デカールも3種類、大型カラー図がついている。

1/72のサンダーボルトも発売されていますが、72スケールでは特大級のものである。いずれのキットも優秀な仕上りを示す十分に楽しめるキットである。

塗装について

図1と2、第8空軍のエース、ガブレスキーの機体で、機体の上、側面はオリーブドラブ(RC?)とパールブルーの迷彩、下面は銀、方向舵と文字が黄色で、機首はレッド35の明灰白色を混色。

図3、全面が無塗装の銀で、胴体の背はオリーブドラブ(RC38)、主翼は武装の部分、幅の広い黒帯が上下面にあり、後端はフラップの分割線までの帯となっている。水平尾翼も上下面に黒帯があり、後端は昇降舵の分割線まで、帯の幅は主翼のものより少し細くなっている。

図4、第9空軍第367戦闘大隊第394戦闘中隊の所属機で、機体の全面が無塗装の銀、カウリングが黄色、垂直尾翼上部は赤黄ブルーとなっている。国籍マークは下翼だけ左右に記入されている。
(K.Hashimoto)

P-47Dデータ(specifications)

全幅(span) 14.42m 全長(length) 11.00m 全高(height) 4.32m 発動機(engine) P&W R-2800-? (2,300馬力) 全備重量(gross weight) 6,615kg 最大速度(max speed) 687km/h 実用上昇限度(service ceiling) 12,120m 航続距離(range) 3,070km 武装(armament) 12.7mm×8 爆弾(bombs) 900kg 乗員(crew) 1名

The Republic P-47D, active in the European theater during the latter part of WWII, was a heavily armored giant fighter. The original model XP-47B made its debute in May 1941. In November 1942 the P-47B was put into operational use. Various types of P-47 were used in actual combat including the P-47C, D, G, M and N; various other types were tested. With a powerful (exhaust) turbine supercharger, the P-47 was furious in high altitude combat as well as in air-to-ground attack, producing many ACEs.

KIT

A large kit of P-47D is now on sale from Revell's 1/32 series. Together with the HIEN recently placed on sale, the giant Thunderbolt has increased the fame of Revell's large kit series. Elaborately engraved fuselage, engine and cockpit, it is perfect in every detail of workmanship. The kit includes three kinds of decals and a large color figure. The high-powered fighter is also included in Revell's 1/72 series. Those who have pretty good judge of aircraft kits can easily find that this small kit is as excellent as that of the 1/32 model in every detail.

PAINTING:

Figs. 1 & 2: This is the plane of Michael Jackson, ACE of the 8th Air Force. The top and sides of the fuselage are camouflaged in Revell Color (RC) 1? olive drab and peal blue, while the bottom is silver. The rudder and the letters are yellow and the nose is RC 3? red. (Peal blue is a mixture of RC 20 light blue and RC 35 bright gray white.)

Fig. 3: The plane is silver. The top of the fuselage is RC 38 olive drab and the wings have wide black bands over the weapon ports and extending to the flaps. Horizontal rudders also have black belts, a little narrower than those of the wings, on both surfaces, which reach the border of ailerons.

Fig. 4: This belonged to the 394th Sq., 367th Fighter Wing, 9th Air Force. It is metallic silver with yellow cowling. The upper part of the tail is red, yellow and blue. Nationality marks are only on the lower surfaces of the wings. (K. Hashimoto)

P-47D/ 塗装 指定レベルカラー	
④イエロー	?ブルー
?レッド	38オリーブドラブ
20ライトブルー	39??
3レッド	34スカイブルー
35??	???



サンダーボルトII戦闘機　イギリス空軍第30スコードロンのサンダーボルトII　ビルマ方面で作戦中の機体　塗装は上側面ダークグリーンとオーシャングレイの迷彩　下面シーグレイメディアム　カウリング先端　それに水平尾翼　は翼[illegible]識別帯があり　国籍マークは　主翼　胴体とも東南アジア用の赤を除いた直径の　[illegible]もの　胴体のコードはRS U で　白で描いている



[illegible]アメリカの[illegible]トフント空軍基地で撮影したP-47D　テネシー州の[illegible]

A-9A攻撃機が初飛行

に成功した。写真でもわかるように，機体は予想以上に大きく太い。胴体両側にはライカミングT-53ターボファンを1基ずつ搭載して，主翼下面にはパイロンが8個もある。これで最高速度[illegible]km/h以上が出せ，低速飛行も楽という。写真で，フラップはブレーキなどの役目を兼ねた特別の型式のものであることがわかる





すべーンと同じくA-9攻撃機で 初飛行を終えて着陸するところ 随伴機のA-37が後方 映っている 操縦 ま ノースロップのベテラン・パイロットL.ネルソン氏あり 着陸 操縦特性 エンジンの性能など すべて予想どおりであったと語っている。本機とフェアチャイルド社のA-10Aが の10月まで 空軍の審査を受け 来年3

同じデルタ翼のMiG-21よりもエンジンの推力は強力だが 全重はかなり重く 性能はやや劣って最高速度も[illegible]
に対して[illegible]くらいとみられている 写真の2機は迎撃戦闘についているものと思われ パイロットがいつでも乗れる態勢にある。この角度からの写真は珍しく、主翼の平面形、フラップの位置などがよくわかる





VAK 191B VTOL研究機



コンコルドが来日

去る6月12日10時5分 羽田の東京国際空港の滑走路に着陸 日本への第1歩を記した超音速旅客機コンコルド 写真は34番スポットにて 来日したのは原型2号機の002 6月2日にテスト飛行基地であるイギリスのフェアフォードを出発 中東からシンガポール マニラ 日本とアジア極東方面へのセールス・デモ飛行で飛来したもので 羽田では13日と14日に1回ずつ招待飛行を行ない 大島方面の海上で超音速飛行 [illegible]

テクニカル・サポート チームとBA ロールスロイスの関係者約60人が英空軍のVC10に搭乗し 予備のオリンパス593エンジンを積んでベルファーストも途中まで随伴した 写真下 おなじく12日 東京国際空港に着陸したVC10 [illegible] 15日に離日 オーストラリアに向かった





飛行第244戦隊の三式戦闘機　Ki-61 HIENs of No.244 SENTAI stationed at Chofu Air Field　Photo by Mr. S. Kikuchi

帰還した4機体各部の点検をして完遂 そなえているもので まだら迷彩や全面濃緑色、上面を濃緑色で塗りつぶしたり、いろんな塗装の機体が見える。
各機とも発動機カバーに機体番号を記入しており 上の写真の右手の1機 胴体に大きなマークの機は燃料を補給中のもので 後方に見える1機は全面濃緑色 胴体には日の丸のない方の丸 出撃前のあわただしいひととき。エプロンには消え残った雪が見える 昭和17年2月頃の撮影





トランスポ'72の出場機



（本文記事参照）

5月27日から6月4日までの9日間，アメリカのダレス国際空港で開催された国際交通博覧会"トランスポ'72"に展示された航空機のなかから，おもなものをご紹介しよう。写真は米海兵隊のAV-8Aハリアー。新しく編成された第513海兵攻撃飛行隊（VMA-513）の1機で，飛行ぶりも披露した。



[上]F 14Aトムキャット，13号機でグラマン社がエレクトロニクス装備の適合性テストに使っている機体。[illegible]



(上) [illegible] (下) 海軍からの出展機で [illegible] 海軍ではこの機かA-6E, A-4E, A-7Eなども展示していた。





[illegible] 海兵隊員のきらびやかな服装にくらべ、オリーブドラブの陸軍機はショーに [illegible]



[illegible] CH-46 [illegible] などのヘリコプタを展示 [illegible] CH-46とCH-53によるデモ・チーム [illegible] の演技もあった。






N7982U

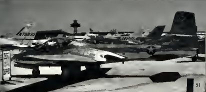

BC



（上）白と赤のきれいな塗装のHC-130H。[illegible]の所属。（下）米空軍の[illegible] 52で緊急離陸に使っている機体。[illegible] HC-130 [illegible]



（下）訓練用のセスナT-37B練習機。セスナのディスプレイ[illegible]サイテーションをはじめ 150 300 400シリーズの民間機が17種類も並べられ壮観であった










3


1
U.S. AIR FORCE

パタクセントリバーの航空基地を見る

ノースロップT-38A練習機 パタクセントリバーのテストパイロットスクールの所属機。



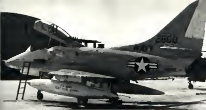
PATUXENT RIVER NAVAL TEST CENTER





[illegible]テスト
[illegible]武器テス[illegible]テスト
パイロットを養成[illegible]
れに第2海洋開発[illegible]
隊（VQ 4）も配属されている。
センターでは[illegible]625項目[illegible]テスト計画をかかえており、飛行テスト部門の主要[illegible]航空交通管制[illegible]置の安全を[illegible]このページの写真はテストパイロットスクールのF-8Kクルーセイダー[illegible]スクールのエンブレムをつけて[illegible]のスクー[illegible]成期間は8年[illegible]カ月間学校に残り[illegible]年間テストセンター[illegible]勤めるマスタ[illegible]コースも計画されている。





[illegible] T-1 OV-10 [illegible] 配備されている。

下の写真はテストパイロットスクールのエンジン関係の[illegible]部門であるサービス・テスト・ディビジョンのTA-4Jスカイホーク。同部門はエンジンの信頼性を高めるため、いろいろのテストを行なっており、とりくんでいるエンジンはJ-57、J-79、TF-41など、最近はグラマンF-14のNPE(予備評価)にも参加している。





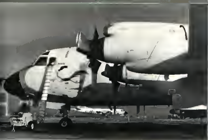


[illegible]テストセンターの飛行テスト部門（フライト テスト ディビジョン）のF-4JファントムII 上の写真のレドーム下のアンテナは，CCA（キャリア コントロール アプローチ）のデフレクターである。



下も同じく飛行テスト部門のA-7EコルセアII





写真上は第8海洋開発中隊（XVN-8）のRP-3D地磁気観測機。新しく地磁気測定装置を積んだオライオンの改型で、今後5年間にわたって地磁気の観測を行なうことになっている。

XVN-8は海洋開発研究飛行のため編成された最初の海軍飛行部隊。地磁気観測のほかにNC-121Kを使って氷山観測、対潜作戦の早期探知のための環境調査なども行なっている。

下の写真の機体はこれらの観測用機のNC-121J。XVN-8のNC-121Kはまもなく









上）スミソニアン博物館に"殿堂入り"するボーイング707のプロトタイプ"ダッシュ80"。航空史上もっとも意義深い12機種の一つとして ライト兄弟のフライヤー号、リンドバーグのスピリット・オブ・セントルイス号などとともに 同博物館に永く保存されることになったもので 去る5月26日 ダレス空港でのトランスポ'72"会場でその贈呈式が行なわれた。"ダッシュ80"は 同機のモデル番号367-80からとった

〔右〕イタリー空軍が発注していたロッキードC-130ハーキュリーズの1号機がこのほど納入され で行なわれた演習に参加した。同空軍では14機を発注しており 年内に7機 来年中に残りの7機を受領することになっている。

〔下〕ロッキード社で研究している"静かな 持つSTOL機"の風洞模型。航空旅客輸送量の増大とともなって深刻化する空港周辺での騒音や環境問題の解決策の一つとして 同社では現在18種もの"静かなSTOL機"の研究をすすめている





(上)5月21日　三軍記念日で開放された岩国基地に展示されたF-4Bファントム II 第122海兵戦闘攻撃飛行隊(VMFA-122)の所属機。スロット付きの水平尾翼にしているのに注意。
(右)5月12日　名古屋の小牧工場で1時間5分にわたる初飛行を行なった航空自衛隊のF-4EJ　2号機。国産の第1号機でもある
(下)5月21日　岩国基地三軍記念日の展示機の1機でPS-1飛行艇8号機。海上自衛隊第51航空隊岩国分遣隊でテスト中のもの







スナップ だより



[illegible] 海兵全天候攻撃飛行隊機で [illegible] のひきらす [illegible] ックを使って着陸 [illegible] 調る戦術戦闘飛隊の [illegible] 完機として [illegible] 基地 [illegible] 第435戦術戦闘飛行 [illegible] のF 4D（国立市 [illegible]）



（上）[illegible] 飛来したKA 3B，第130電子偵察飛行隊（VAQ 130）の所属機で [illegible] のテイルレター。ハワイか [illegible] 基地 [illegible] のファントムの移動のため [illegible] 飛来したものと思われる（[illegible]・[illegible]）。



[illegible] ランダー 4 [illegible] 行場で撮影（[illegible]）

2式複座戦闘機 屠龍



関東平野上空を哨戒飛行中の2式複座戦闘機 松戸を基地に本土防空戦に活躍した第53戦隊の所属機で キ45改丙型。

KAWASAKI TWO-SEAT FIGHTER TORYU

TORYUs of No.53 SENTAI

前ページと同じく53戦隊の2式複戦屠龍 丙型の武装強化型で 胴体前部の上向銃のほかに 機首（37mm砲）1門を装備している。この武装をした丙型の写真は珍らしい



KI-45KAI-HEIs of No.53 SENTAI carried an armament of two obliquely-mounted 20mm. cannons in the center fuselage and one 35mm.cannon in the nose

機首に12.7mm機銃2挺を装備して昭和16年9月に完成したキ45改の試作機。後方に100式司令部偵察機が写っている。

Ki.45KAI TORYU prototype, the first of these being completed in September 1941



2式複座戦闘機甲型の最初の量産型。この機体は機首の12.7mm機銃をはずしている。昭和18年8月に南方に派遣された第5戦隊の所属機と思われる。



Ki.45KAI KO early version, probably of No.5 SENTAI

2次大戦で実用化された日本陸軍で唯一つの双発戦闘機「屠龍」は"Nick"のニックネームで連合軍から注目される存在であったが なんとしても戦場へのデビューは開戦2年目の昭和17年 生産数もわずか1,691機と数が少なく 本土防空戦でB-29を相手に どうにか本領を発揮したのみに終ったのは惜しまれる。

右は第53戦隊の丙型。同戦隊は昭和19年4月1日所沢で編成され 5月 松戸飛行場に移って2式複戦を装備 20年8月まで同飛行場を基地にB-29の迎撃に活躍している。写真の機体は胴体側面に"やじるし"のマークを描いた同戦隊の特攻隊 震天制空隊の機体である。この隊が特攻隊として体当りの任務を与えられた。尾翼は53を図案化した戦隊マーク 塗装は緑色のまだら迷彩で 夜間を主に戦った。

下は甲型の機首 12.7mm機銃(ホ103)を点検中。上向銃も装備した夜戦型である。機首が丸いのが甲型の特徴。次ページ下は乙型で 機首は甲型よりも少し延長され 20mm機関砲を1門装備した



A lineup of Ki 45KAI-HEIs belonging to the Special Attack SHOTAI of No 53 SENTAI at Matsudo Army Air Field. The insignia "Red Arrow" with white feather of Special Attack SHOTAI is seen on the fuselage while the fin bears the unit insignia of the 53.



Armorer prepares the two 12.7 mm. Ho-103 MGs in the nose of Ki 45KAI-KO



Close-up view of the nose of a Ki.45KAI-OTSU showing protruding blast tube of the nose mounted 20 mm cannon



未発表 陸軍機写真集

© 菊池俊吉



第244戦隊の3式戦"飛燕"







飛行第244戦隊は昭和16年7月30日、埼玉県藤岡の陸軍士官学校で編成された第144戦隊がその前身。同年9月、97戦を持って調布へ移駐。18年7月に3式戦闘機に改編して、終戦まで帝都・東京の空を守り続けていた。常に陣頭指揮をとり、自らも14機撃墜の戦果を記録している勇猛果敢な同戦隊の戦隊長・小林照彦少佐のプロフィルや機体は、すでに本誌でもたびたび紹介され、おなじみのところであろう。

写真上は編隊で関東平野上空を飛ぶ同戦隊の飛燕1型。本格的な高々度戦闘機でなかった本機は、超高空を侵入する優速なB-29との戦闘では苦戦したが、体当りで撃墜する気力の迎撃でかなりの戦果をあげている。

右は調布飛行場を発進する同じく244戦隊の飛燕1型。地上勤務者たちの見送りを受けて、優雅な姿の飛燕は1機また1機とエプロンを離れる。なお、この頃の調布には780mと1000mの2本の滑走路があったという。



Ki 61-1 HIENs of No.244 SENTAI on patrol over the plains of Kanto



HIENs of No.244 taxiing out to take off on a mission at their home base of Chofu Air Field



〔上・下〕編隊で飛行中の第244戦隊の3式戦闘機。主翼下 爆弾架を付け 尾輪を固定式にした I型乙 胴体に大きな電光を描いた先頭機は 小林戦隊長機と思われる

HIENs of No.244 SENTAI escort high above the planes of Kanto. Note the large LIGHTNING insignia on the fuselage of the top aircraft which probably be Major Kobayashi's aircraft.





震天特別攻撃隊の飛燕1型

HIEN assigned to Special Attack mission.

高速で防弾がかたく、しかも超高空を飛来するB-29は、高々度一万メートルと機敏に性能の落ちる日本の戦闘機では、それを撃墜するのは尋常の手段では至難であった。

昭和19年秋になって、防空戦闘機部隊では「震天制空隊」という体当りの特別攻撃隊をつくることになった。各戦隊ごとに編成されたこの特攻隊の各機は、B-29の巨体へつぎつぎと体当りを敢行、多大の戦果をあげている。

このページはその震天制空隊の一員として、昭和19年12月3日、B-29の編隊胴体に体当り、馬乗りとなって奇蹟的に生還した244戦隊の中野伍長機で、尾部をもぎとられて墜落したB-29とともに一般供覧のため日比谷公園に展示されたときのスナップである。中野伍長はその後1月27日にももう一度体当りを敢行しているが、このときも生還している。

ペラが折れ曲って痛々しくなまなましい飛燕の機首。B-29は尾部は実物であるが、胴体前・中央部や主翼は、模型を作って組み合わせ、操縦席の配置などを示す透視図を画いて展示されている。



前ページと同じく日比谷公園に展示された震天制空隊の中野伍長機とB-29の残骸。飛燕は体当りのショックで胴体下の冷却器が押しつぶされている。



スピットファイアの戦闘記録



ロールスロイス マーリンにかえて グリフォン エンジンを装備したスピットファイアの最初の型がMk XII(12)。当初 同エンジン装備機はXX（20）シリーズで統一する計画であったが、英本土南岸を低空で襲うFw190を迎撃するために、グリフォンを装備した性能向上型を早急に整備する必要に迫られ、Vc型の機体を利用して120機が量産されることとなった。

（上・下）の2枚はそのプロトタイプ（DP845）で、下の写真では主翼が長いものとなっているが、のちに上の写真のように翼端を切断し、引込式の尾輪に改められている。なお、このDP845機は最初Mk IVと称されたもので、マーリン装備の写真偵察機PR MK IVとまぎらわしいので、のちにMk XXの呼称が与えられている。マーリンエンジン装備機にくらべて、カウリングまわりが[illegible]ふ変っているのが主要[illegible]











〔左ページ上〕116ページと同じくMk XIIのプロトタイプDP845機。ロールスロイス・グリフォンIIBエンジンを積んで1942年に初飛行している。

〔左ページ中・下とこのページ右〕Mk XIIの1機。イギリス本土東方の海峡を電撃的に襲うFw190に対抗して、翼端を切った低空戦闘型として1943年1月から戦闘に参加している。

〔上〕のMk XIIを最初に装備した第41スコードロンの所属機で7機編隊で低空をパトロール中。プロペラスピナそれに胴体のコード・レターと帯はスカイの塗色、主翼前縁の線は黄色である。









①グアム島の飛行場に駐機したF4U-1Dコルセア。第21海兵航空大隊の所属機で、1944年9月の撮影。

②同じくグアム島のF4U-1D 2機が[illegible]ルに発進するところで、[illegible]の下に「IFF ON?」の注意書きがある。これはIFF (Identification Friend or Foe 敵味方識別装置) のスイッチを入れたかとの注意をうながすものであろう。

③同じくグアム島に待機するF4U-1

④第8海兵航空大隊のF4U-1で カリフォルニア州のサンタバーバラ上[illegible]しているところ 1945年3月19日の撮影。

海兵隊のコルセア



②



③



④



①目標上空で攻撃に向うF4U-1D。第2海兵航空団第312海兵戦闘中隊（VMF-312）の所属機。1945年の撮影。[illegible]は終戦後の海兵隊のコルセアで、演習のためにカリフォルニア州エルトロに集った第4海兵航空部隊のF4U-4。1947年4月の撮影。②南方の基地に待機する第1海兵航空部団の第222戦闘中隊（VMF-222フライング・デューセズ）のF4U-1。機首に"シー・ビー"のマークをつけている。1945年3月10日の撮影。③グアム島に再上陸した第112戦闘中隊（VMF-112 [illegible]）のF4U-1D。この部隊は空母[illegible]で運ばれて、[illegible]に参加した。1944年[illegible]




⑦


⑧